【中空知支所：地域第一係】

課題番号１７　**水稲を基幹とした持続可能な経営の確立**

対象：新十津川町総進４・５地区（１３戸）

1　活動の背景

現状・課題

家族経営
水田専業 or 水田＋園芸・畑作

規模拡大農家へ農地集積
⇒ 労働力不足

経営移が譲進んでいる
⇒ 若手経営者の育成

対　策

目標値を決めて農業者と実践！

①土地利用作物の安定生産

管理技術向上
省力化技術の導入

②高収益作物の推進

管理技術向上・新規園芸品目の導入

③担い手への技術伝承と資質向上

栽培・経営管理技術の習得

2　活動の経過

①土地利用作物の安定生産

＜目標＞

〇水稲高品位米出荷率安定化
（R3～5年）
〇水稲省力省力技術の定着
（R5～7年）

〇畑作物の適正管理と実践
（R3～7年）

戸別の改善目標設定･改善

・適正施肥管理・登熟期水管理
・適正栽植密度・個別面談

戸別課題を解決！

土壌改良と収量性検証

・子実とうもろこし導入検証
・排水実証ほ
・輪作モデル検証

現地研修で実践検証！

② 高収益作物の推進

＜目標＞

〇ミニトマト収量の高位安定化
（R3～5年）
〇新規園芸品目の導入
（R5～7年）

生産技術の提案と実施

・施肥管理　・交配方法
・遮光資材

濃密な管理支援！

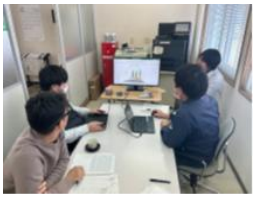
③ 担い手への技術伝承と資質向上

＜目標＞

〇栽培・経営管理技術の習得
－ 担い手育成 －
（R5～7年）

現地生育診断営農モデル作成

・現地実証ほ　水稲ほ場巡回
・研修会

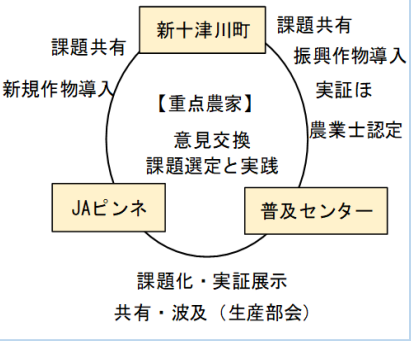


経営モデル検証

3　成果の具体的内容

＜目標に対する成果＞

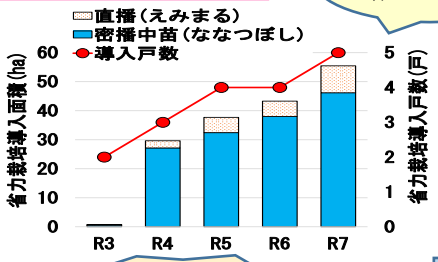
目標事項	主な取り組み内容	成　果
高品位米出荷率の 高位安定化	定点設置　実態調査と技術の支援 現地研修会と冬期戸別面談	0戸 → 9戸
水稲低コスト省力化技術 の導入･定着	戸別の課題整理と管理技術支援 経済性、労働時間調査結果の提示	0戸 → 4戸
生育に応じた畑作物の適正管理 転作畑における輪作体系の実践	ドローン実証　子実用とうもろこし導入 排水改善の実証と輪作モデル	0戸 → 1戸
ミニトマト収量 の高位安定化	草勢、ECに基づく施肥管理 病害予察、他地域へ視察研修	0戸 → 4戸
新規園芸品目の導入	にんにく導入・管理支援　展示ほ	0戸 → 1戸
栽培・経営管理技術の習得 (担い手育成)	育苗・本田巡回と生育診断 管理技術・現地巡回　視察研修	0戸 → 7戸

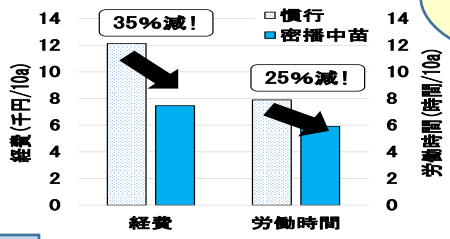


関係機関との連携

水稲省力化技術

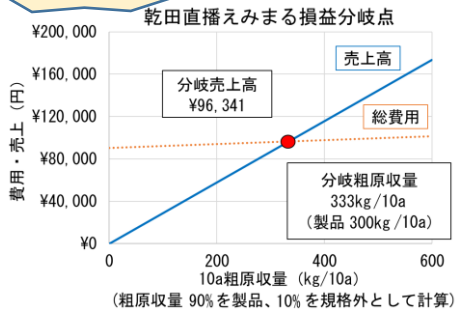
水稲省力栽培面積が増加した！



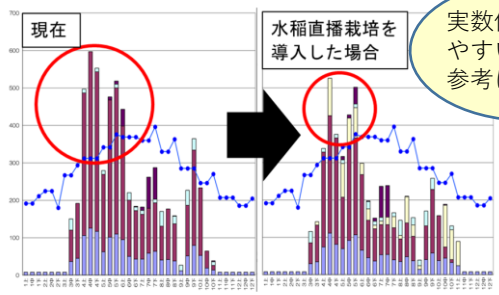


省力栽培で経費・労働時間が減った！収量も安定した！

実証ほを基に直播導入モデル提示！



（粗原収量 90%を製品、10%を規格外として計算）



労働時間の比較

実数値はわかりやすい！営農の参考になった！

担い手育成

農業者	栽培知識	現地実践				経営管理	総合評価（資質向上）
		水管理	病害虫対策	雑草対策	生育診断		
C	○	□	□	○	○	□	□
D	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
E	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
F	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
G	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
H	○	○	◎	○	○	○	○
I	◎	○	○	○	○	◎	○

◎：身に付いた　○：概ね身に付いた　□：少しは身に付いた

・若手農業者に栽培管理技術が定着した
・規模拡大に備え直播栽培導入を試算し、労働力軽減効果が理解された
・若手リーダーが北海道農業士に推薦･認定

生育診断法がわかり適期管理できた！

4　今後の対応

① 経営規模拡大農家への支援
② 生産部会・青年組織を通じた波及